

## たいへんです！ 小人がお花を植えています！

### 【JFEトンボみち】

10月25日の月例活動日、末広地区緑のまちづくり協議会からいただいた花苗150株を、JFEトンボみち内と前面歩道沿いにファンクラブのみんなでお植えました。ビオラ、ストック、ノースポール、アリッサム、ユリオプステージーと来春まで咲き続ける花々です。この場所が花いっぱい地域のオアシスになるといいですね。(銀)



歩道沿いにビオラを植付け



正面入口のストック



七人の小人もお手伝い



### 【JFEエンジニアリング会社前の歩道沿い】

10月28日、JR鶴見線弁天橋駅前の機械式駐車場(ミニ10)前のプランターに花苗を植えました。この花苗は「末広地区緑のまちづくり協議会」活動の一環として、前日に配付されたもので、昼休みの時間を利用して、グループ会社を含めた7名により行われました。

植えた花苗は、**ビオラ150株**。きれいな花を咲かせて、弁天橋駅利用者の目を楽しませてくれることと思います。

↑  
丁寧に植えて  
頂きました



綺麗に咲いて  
います



今月もトンボの体の色について、トンボ博士がズバリお答えします。

②トンボの色、いろいろ(続き)

Q2. なぜシオカラトンボは白く、ショウジョウトンボは赤くなる?

二橋亮さんはシオカラトンボの雄が白くなることに着目し、その理由を調べた。するとそれは腹部の表面にある種のワックスが被うことによることがわかった。しかも有害な紫外線を著しく反射させるのだ。一方、彼はショウジョウトンボ雄の真っ赤な発色も調べ、それが強力な抗酸化色素の蓄積であることもつきとめた。両種はそれぞれ物理的、化学的に有害な紫外線対策をしているらしいのだ。どちらの種も、真夏の炎天下、雄は日光を全身に浴びながら水辺でなわばりを張っている。温暖化でますます酷暑となっており、トンボがさらされる日差しも強いものがある。

トンボはどこまで飛ぶかフォーラムの調査によれば、近年、京浜臨海部でショウジョウトンボの捕獲数がシオカラトンボのそれをしのぐようになったが、ひょっとするとこの紫外線対策の違いが影響しているのかもしれない。(文責:田口正男農学博士)



ショウジョウトンボ♂

※この「トンボ百科」は、横浜市環境保全協議会発行の「かんきょう横浜」から転載しています。

(シリーズ) トンボみちの仲間たち

10月25日(日)のファンクラブ活動の様子です。(撮影:柴田代表)



サツマイモの収穫



大学芋を作って食べました



アキアカネを素手でキャッチ



記念植樹の早生ミカンが色づいてきました



収穫したほうれん草



ファンクラブのみなさん

活動予定

※雨天は1週間延期

今月:11月22日(土) 10時~12時

来月:12月27日(土) 10時~12時

事前の申込みは不要です。誰でも参加可能!

公式ホームページをご覧ください

トンボみちファンクラブ

検索

JFEトンボみち ファンクラブ通信 2014年11月号

発行日:2014年11月19日

発行者:トンボみちファンクラブ通信事務局

事務局:〒230-8611 横浜市鶴見区末広町2-1

JFEエンジニアリング(株)総務部 施設管理室

Tel045-505-7447, Fax045-505-6546

ファンクラブ通信への自由投稿をお待ちしています。



京浜の森ロゴマーク